

巻頭言

情報基盤センター長

石川 裕

このたびの東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、震災に伴う電力供給不足により当センターのマシンを縮退運転せざるをえない状況にあり、ユーザの皆様には大変ご不便をおかけしております。震災直後より、東北電力・東京電力管外の情報基盤センター群から計算資源提供の申し出を頂いており、現在、北海道大学情報基盤センターおよび九州大学情報基盤研究開発センターが保有している日立製作所製 SR11000 相当機種の一部を当センター向けに利用させていただいております。また、京都大学学術情報メディアセンターの T2K マシンの一部も利用させて頂くべく準備している状況であります。

昨年度より情報基盤センター群は、「革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ (HPCI)」構築に向けた技術的課題や運用体制などを議論してきました。HPCI は、情報基盤センター群を含む我が国のスーパーコンピュータ群、平成 24 年秋に共用開始される次世代スーパーコンピュータである京コンピュータ、新たに設置される共用ストレージを SINET4 高速ネットワークでつなげ、これら計算資源とストレージ資源をユーザが容易に利用できる環境を提供する基盤です。このために、情報基盤センター群はシングルサインオンのための認証基盤、ユーザ支援機能、ストレージ、先端ソフトウェア運用基盤の実現にむけて議論し、今年度秋にはテスト運用を開始する予定です。現在 HPCI 運用基盤自体は整っていない状況ではありますが、今回の震災に伴う計算資源提供協力は運用に欠かせない運用現場の交流が促進していくものと考えています。

電力供給不足は長期化することが予想され、SR11000 後継機として進めていた MPP 調達を仕切り直すことにしました。性能対電力効率が良いだけでなく、電力消費ピーク時対策として日中の縮退運転、夜間や休日の全系運転を臨機応変にかつ故障せずに運用できるシステム導入が必須であると考えております。

ユーザの皆様にはしばらくご不便をおかけしますが、皆さまの研究が遅滞しないよう最善を尽くしてまいります。